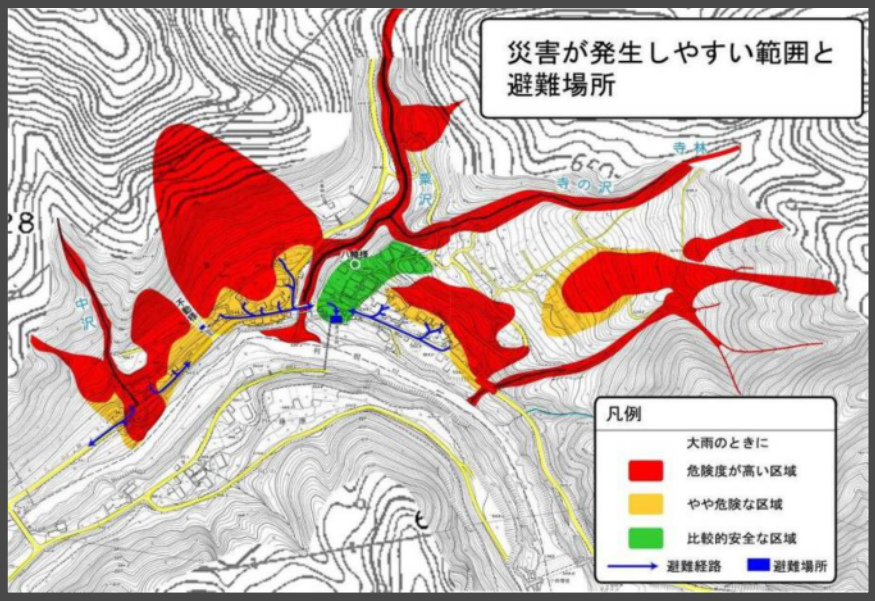
みなかみ町粟沢地区 (土砂災害)



57

みなかみ町の過去の災害

平成10年8月豪雨

半壊家屋2件、一部破損1件、
床上浸水32件、床下浸水161件

平成14年7月豪雨

家屋被害7件
幸いにも人的被害は無かったが、
家屋は甚大な被害

58

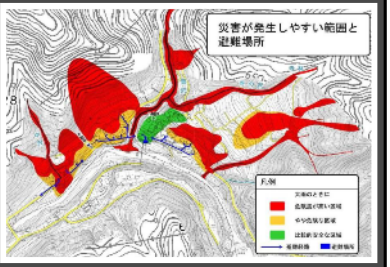
住民とのワークショップ

土砂災害危険地域で住民と向かい合う

59

住民とのワークショップ　scene-1

土砂災害警戒区域図の提示



住民：なんだこれは!?

で、役場はどう考えてるんだ!!?

片田：そうですね。役場での対策は
どうなっているんですか？

役場：・・・いやぁ・・・

片田：なぜ、役場の職員が口ごもるか、皆さんわかりますか？

群馬県内には土砂災害警戒区域が約7,600箇所もあること、財政上の制約、ハード対策が完了しても完全な安全は保証できないことを説明。

60

住民とのワークショップ　scene-2

住民：なるほど、それで先生は避難の話をしに来たんだな。
だったら、役場は避難情報くらいはちゃんとくれるんだろうな？

役場：いやぁ･･･出来る限り情報提供は県と協力してやりますが、
完璧な情報提供となるとちょっと･･･

片田：土砂災害の場合、事前の
警戒避難情報を出すのは
非常に難しいのです。

警戒避難情報の難しさ

災害発生前の
避難勧告発令
市町村は４％

H19国交省砂防部調査

土砂災害が如何に不確実性の高い災害で、警戒避難情報の提供が難しいかを説明。

61

住民とのワークショップ　scene-3

住民：ハードもダメ、ソフトもダメ･･･
先生、わしらはどうすればいいんだ？？

片田：完全な安全が欲しいのであれば、
ここから出て行くしかありません。

住民：･･････････

62

住民とのワークショップ　scene-4

無論、集落を離れさせることが真意ではないことを説明。
ハード・ソフト両面を少しでも改善する努力を当局に要請。
しかし、居住継続のなかでの根本的解決策は無いことを説明。

そして、この地が今日まで永年継続してきた事実を提示。

片田：なぜ、この地が度々土砂災害に見舞われながらも
今日まで続いてきたのか、わかりますか？

住民：！

63

住民とのワークショップ　scene-5

災いをやり過ごす知恵、災害文化の存在を指摘。
抜本的解決策は無いことを確認しつつも、災害文化によって地域が継続した事実に希望を見いださせる。

災害文化の風化、行政への過剰な依存体質について現状認識させる。

災いをやり過ごす知恵の積極的利用と継承のみが取り得る手段と自覚させる。

片田：今ここで知恵を風化させてしまったら、子･孫は災いを
やり過ごす知恵を知らぬまま、土砂災害の危険がある
この地に住み続けることになるのです。

住民：!!!

64